

令和元年度第2回行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

令和元年7月31日（水） 午前10時00分～午前11時40分

2 開催場所

花巻市役所新館 1階会議室

3 出席者

(1) 委員 6名

影山一男委員（部会長）、八木浩委員、高橋誠委員、吉田幸子委員、小原幸子委員、清水正明委員

(2) 説明者（施策主管課） 3名

観光課：高橋徹課長

大迫総合支所：吉田幸弘地域振興課長補佐

石鳥谷総合支所：藤原良浩地域振興課長

(3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 2名

秘書政策課：瀬川千香子企画調整係長

財政課：菅原由紀子主査

4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「観光の魅力向上」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

影山一男委員：「3 成果指標の達成状況」の「観光施設、イベントの入場者数」について、「施設への入場者数 1.7 万人の増とイベントの入場者数 9.1 万人の減」を分けて記載しているが、成果指標は合計の入場者数になっている。成果指標の根拠として、施設への入場者数とイベントのそれぞれの入場者数があると思うが、それが示されていないので分からなかった。数字が示されないと検証するには不十分である。

また、「広域（花巻・遠野・平泉）観光客入込者数」については、9.4 万人の減少になったことと、プロモーションの成果が出ているという記述になっている。プロモーションの成果によって、減少幅を抑えることができたということなのか、分かりにくかったので、説明をお願いしたい。

これまでの事務事業の継続が功を奏して入場者数が増加しているということだと思うので、重要な数字であり、明示をお願いしたい。

高橋徹課長：平成30年度実績では、観光施設への入館者数が55.4万人、イベント入場者数が48.1万人である。観光客については、連携する3市町を合わせた入込数が大きく減少したことは確かだが、プロモーションでどれくらいの入場者数増につながったかは、数字で表しにくい。今後数字でつかめるように検討していく。

影山一男委員：「広域（花巻・遠野・平泉）観光客入込者数」の記載については前年比9.4万人の減と、プロモーションの成果が表れたという記述が1つの文章になっているものを、「減少していること」と、「プロモーションの成果」は分けて記載すると明確になる。

小原幸子委員：道の駅事業について、5年前ほどに道の駅石鳥谷が県内一の売り上げだと聞いた。魅力ある再編整備をしていくには、様々な設備等が必要と思うがどのような構想で進んでいるのか。

藤原良浩石鳥谷総合支所地域振興課長：道の駅は、南部杜氏の里ということで、平成3年4月に南部杜氏伝承館を作り、その隣に酒匠館を作って駐車場整備を行った。平成4年には図書館等を整備した。その翌年に道の駅制度ができ、国道4号線沿いということもあって、平成5年に道の駅石鳥谷となった。

現在の道の駅は産直施設や食堂も最初から一緒に整備するのが一般的だが、道の駅石鳥谷の産直は平成10年に整備した施設であり一体感はなく、建物が多いため、お客さんからは分かりにくいという声もあった。また、国道4号線を盛岡側から来ると、左手が林になっていて入り口が分かりにくく、入り口を過ぎた交差点から入ってくることも多く、こうした課題に対応していくこととしている。

まず、大型車のドライバーが平日は良く寝泊まりしているということなので、大型車の駐車場を拡張する。また、国道4号線の交通量は今後も増加する試算が出ているため、交通量に見合った駐車場スペースを確保することで進めている。道の駅は市と道路管理者である国土交通省の共同管理で、駐車場の拡張には、国土交通省との合意形成が必要である。その合意形成ができたのが最近のことで、北側の土地5,000㎡を取得し、駐車場を拡張する。このことによって、盛岡側から来る車にとって、入り口が分かりにくいという課題も解決すると考えている。木の伐採はすでに進んでいる。

更に、24時間トイレについても過去に後付けで設置したため、トイレとお土産物販売所が道路で分断されており、建物の連携が悪いのが現状。そのため、現在の南部杜氏伝承館は曳家で北側に移築し、その跡地にトイレを整備することとしている。また、道の駅裏手にある大食堂に食堂機能を集約して、現在お土産物と食堂を併設している酒匠館は、お土産物と産直施設にする形ではどうか、ということも計画している。

令和5年が道の駅石鳥谷の30周年にあたるため、そこを目標に整備を進めていきたいということで、準備を進めている。

清水正明委員：以前から課題になっているイベントのスタッフや担い手をどう育成していくか、どう伝承していくかという点が、ずっと課題のままである。人をどう育成していくか。祭りやイベントはやる人が楽しくないといけない。祭りの魅力を伝えることが大切であり、そのあたりを整理しないとけない。何年も同じ課題があるというのはいかかなものかと思う。

高橋徹課長：ご指摘の通りである。花巻まつりの場合、事務局になっている観光課が対応をどうするかということを考えてきたが、みんなで考えないといけないということになった。そこで、構成団体や参加者で企画委員会を新しくつくり、もっと意見や困りごと、やりたいことを集約している。少子高齢化の時代において、観光である一方、別な側面である「地域の大切な長年続いている祭りを守る」、という点に特化している状況。いろいろな意見は出されているが、決定的な意見は出ていないのが現状である。

清水正明委員：取り組み状況をアピールすることも必要。一気に課題を解決することは難しいと思うので、課題解決のために少しずつ段階を踏んでいることを示す必要がある。

吉田幸子委員：農村施設改修事業の屋根改修事業が、B評価なのはなぜか。

瀬川千香子企画調整係長：成果指標がないため、ルール上B評価ではなく「-」になる。

吉田幸弘大迫総合支所地域振興課長補佐：屋根の改修事業なので、工事が終われば完了するもの。完成しても成果指標が空欄のため、成果が反映されなかったものである。

瀬川千香子企画調整係長：道の駅石鳥谷施設再編事業についても同様の理由で評価なしになる。

高橋徹課長：観光施設維持事業の修繕費用が7,776円になっているが、7,776千円の誤りであったので訂正する。

吉田幸子委員：花巻まつりの来場者数が減少しているように感じるが、どうやって人数を把握しているのか。

小原幸子委員：東和のアートクラフトフェアでは6万人の来場があった。東和では数えている人がいる。往来する人も1人でカウントしているため、重複はある。

高橋徹課長：花巻まつりの来場者は、現在10万人前後であるが、17～18年前は50万人前後という話もあり、現実に近い数字にしようということで、1㎡あたりに立っていられる人数が決まっているため、人が埋まっている範囲に図面上で線を引いて推計している。

吉田幸子委員：参加人数が成果指標となっているため、それぞれのイベントで同じ基準で測っているのか、それぞれの基準で測っているのか。

高橋徹課長：主催者それぞれの判断基準により測っている。

高橋誠委員：何年かに1度、入込数の集計方法は見直さなくてはいけないのではないかと。日帰り客が増えるなどもあって、ポイントでは増えているところもあるかと思う。

吉田幸子委員：測定が難しいことは理解する。成果指標において、担当者が集めた数字を使うのか、魅力を発信していることが分かる数字を使うのか、どちらが良いのかも判断が難しい。

清水正明委員：自発的に参加する人を増やさないと、その地域の組織単独で活動することは厳しい。どうしていくかを考えないと地域の祭りは伝わっていかない。目標の数値よりも伸び率がどうかを見るであるとか、ターゲットを定めた成果指標によって、伸び率の推移で測るという方法もある。そうしないと改善策は出てこない。そのため、細かな数字を1度抑えて、根拠のある成果指標と目標値を作ることが必要と考える。

高橋徹委員：指標を作るときに、「成行値」という、何もしなければどうなるかという数値

がある。成果指標設定時の考え方は、ターゲットを日本人ではなく外国人に定め、国内は現状維持とし、外国人観光客は3倍にするという考え方をしている。

影山一男委員：「6 施策の総合的な評価」に記載されている「一元化したシステム」の構築は、広域観光振興事業で行うのか。この事業の予算規模は決して大きくないが、システム開発にはお金がかかるイメージがある。実際のシステム構築は広域観光振興事業としてやっていくことかと思うが、「広域観光の推進」という施策上の取組における成果は、広域観光振興事業の実施内容を念頭において考えれば良いのか。

高橋徹課長：システム開発には多額のお金がかかる。広域観光振興事業による他市町との連携によって、他市町の魅力を紹介しながらも、花巻市への宿泊客の取り込みも狙えるのは幸いである。

影山一男委員：花巻は秋田にも釜石にも青森にもつながるちょうどいい位置にあり、宿泊する地点になる。広域連携も花巻を中心にして、太平洋と日本海をつなぐなど、現在の3市町から広げていくという考えはないか。

高橋徹課長：常に新たな連携先は模索している。新しい組織を作るかは別として、連携して新しいPR商品を作ることは行っている。

八木浩委員：商工会議所で取り組んでいるのが、花巻を起点として釜石と秋田港から能代までつないだ「日本メルヘン街道」という観光ルートを検討している。

八木浩委員：道の駅石鳥谷は令和5年度に完成するということか。

藤原良浩地域振興課長：できれば令和4年度には完成させたい。花巻市だけの事業だけではなく、国の負担も大きいので、国の予算の付き方も見ながら進めることになる。市として進めていくところはあるが、目標としては令和5年度である。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

●「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか

影山一男委員：成果指標が大枠すぎて、解決策を打つべき課題が明確になっていない。関連して、観光課としてはより多くの問題を把握しているものの、記載しきれていない点がある。

清水正明委員：具体的に取り組んだ内容を記載することで、分かりやすくなる。

影山一男委員：危機的な祭りや、うまくいっているものは何かなどがぼやけている。

吉田幸子委員：行政の役割が大きくぼやけている。総まとめではなく課題を具体的に表すとわかりやすい。

高橋誠委員：現状と課題には対応している。

影山一男委員：イベントの主催者、行政、商工会等の団体、祭り開催地付近の住民など、それぞれの役割分担を具体的に記載するとわかりやすい。チェック→アクションは昨日している。後継者についての課題が、どの祭りにおいて一番厳しい状況なのかなどを書くとわかりやすい。

吉田幸子委員：後継者が少子高齢化のために少ないのか、市民の興味関心がないから少ないのか、原因を分析し、具体的な理由が明らかにすることで解決策が見えてくる。

(確認)

影山一男委員：機能しているが、具体的な記載が必要。課題によって対策は異なるため、役割分担の内容や後継者不足の要因を明確にするべきである。

● 「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

吉田幸子委員：①、②、③の事業を「なし」と判断した理由の記載が必要。

影山一男委員：成果が全てAなのであれば、「なし」でもよいと思う。

高橋誠委員：本質的な問題は雨ではない。宿泊者数が平成27年から平成29年まで夏期間で少ないはずだが、一昨年まで好調だったのは、震災特需や国体、世界遺産の盛り上がりがあったためであり、それが終わったこともある。問題認識として、雨のせいだけにするのは危ない。

八木浩委員：産業まつりでは、雨でも売り上げはそんなに変わっていない。雨が降ったから産業まつり会場に人が流れてきたということもある。

(確認)

影山一男委員：①、③をなしとする具体的な理由を明示した上で記載。

● 「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

影山一男委員：背景や要因を分析するには、この成果指標ではおおざっぱすぎるのではという点は指摘した方がよい。

吉田幸子委員：イベントの入場者数は、主催者ごとにカウント方法が違うということであったので、どうにでも動く数字を使っていると感じた。こうした数字しかないのかもしれないが、これだけを施策の達成度を判断する成果指標にすると分かりにくい

高橋誠委員：入場者数は計算する根拠があるので、それはそれでよいが、数字以外の成果指標を挙げてこないと評価できないところもある。

八木浩委員：今、現実に取り組んでいることに対する成果指標をするか。

吉田幸子委員：入場者数が成果になると、目標が達成できない理由を天候などの外部要因に求めざるを得なくなる。施策が「観光の魅力向上」ということで、観光資源であれば特産品を開発した数などが考えられる。

影山一男委員：観光資源の中でも、工場観光のようなものもある。観光資源を分類し、それぞれの資源がどう動いているかを評価することで、今後増やしていくべき、開発していくべき観光資源は何なのかがはっきりしてくる。

高橋誠委員：新しい取組が成長しているかどうか、を把握できる成果指標は必要である。

吉田幸子委員：次期計画を策定する際に新たな成果指標を作るという提言でもよい。

清水正明委員：現在の成果指標は数で押さえているので、誤差の範囲のブレはやむを得ないとしても、数にこだわらない指標も必要である。

(確認)

影山一男委員：成果指標がおおざっぱすぎるので、具体的な課題との関係が分かりにくい。施策の課題を明確にすることができる指標の設定が必要。

● 「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

高橋誠委員：成果指標を増やすのであれば、「課題」に記載のある、具体的な周遊プランや滞在型メニューについての成果を見せるべき。

影山一男委員：もう少し具体的に記載をしてほしい。滞在型メニューというものも大枠であり具体的にどんなメニューなのかの記載は必要。花巻市独自の観光政策の課題が現状のシートからは見えてこない。地域の課題が分かりやすいように評価をしてほしい。

(確認)

影山一男委員：周遊プランや滞在型メニューについて、具体的な内容について記載が必要。花巻市独自の課題と方向性について明示してほしい。

● 「シート記載内容全般について」

意見なし。